

今、ここにいる児童・生徒たちとともに考える人権教育を
～反差別の教育にどう取り組んでいくのかを考える～



夏季セミナー

7月29日(水)・30日(木)

府立人研だより

大阪府立学校人権教育研究会事務局
2026年7月3日 第10号発行

◆会場のご案内(今年度は2会場で開催します)◆

府立今宮高等学校(大阪市浪速区戎本町2-7-39)

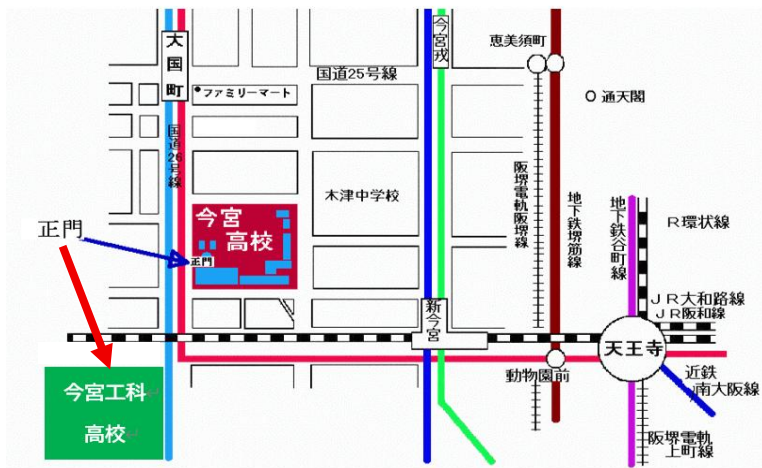
JR環状線・南海電鉄「新今宮」駅より 北西へ約300m

大阪メトロ御堂筋線・四つ橋線「大国町」駅より 南へ約300m

府立今宮工科高等学校(大阪市西成区出城1-1-6)

JR環状線・南海電鉄「新今宮」駅より 西へ約400m

大阪メトロ御堂筋線・四つ橋線「大国町」駅より 南へ約600m



◆参加お申し込みについて◆

- 1 資料代として当日2,000円が必要です。
- 2 申込方法
右記の二次元コードからお申し込みください。
(詳細は開催要項をご覧ください。)



*各分科会会場には定員があります。申込状況により、希望の分科会にご参加いただけない場合があります。その際には、事務局から連絡をさせていただきます。

◆お願い◆

- *当日は名札・上履きをお持ちください。
- *会場には駐車場がありませんので、自動車・バイク等でのご来場は固くお断りします。
- *会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。
- *両日とも午後の分科会につきましては、当日に掲示等で会場をご確認ください。



7月29日(水) 第1日

9:30 10:00 12:30 13:30 14:00 17:00

内容	受付	全体会	休憩 移動	受付	分科会
----	----	-----	----------	----	-----

会場 今宮高等学校・多目的ホール 今宮高等学校 または 今宮工科高等学校

第1日 午前 全体会

全体会

府立今宮高等学校・多目的ホール

7/29
(水)

これからの進路保障 公立校の存在意義を考える

講師：高田 一宏さん(大阪大学大学院 人間科学研究科 教授)

全体会

10:00

|

12:30

自己責任が当たり前と捉えられている社会の現実が子どもたちにも知らず知らずのうちに浸透してしまっている現状を感じたことはありませんか? 皆さんの学校では、子どもたちから「格差があるのは当然」、「自分はがんばったし、あの子は何もしないから」というような自己責任論を容認するような発言がありませんか?

講師の高田さんは、地域教育論や同和教育論を専門とし、人権教育や学力保障について研究をされています。「子どもの貧困・社会的排除の深刻化という課題に対して不可欠なのは貧困対策と人権教育である。教育は未来に向けて人を育てる営みであり、教育には『当たり前』を変える力が秘められている」とおっしゃっています。

大阪で培われてきた「排除を克服する教育」と同和教育の「進路保障は同和教育の総和である」は、自己責任が当たり前になってしまっている今の社会を捉えなおしていくのに重要な観点ではないでしょうか。今一度、原点に立ち返り、これからの進路保障と公立学校の意義について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

第1セミナー（教材部会）

府立今宮高等学校

今、この社会を構成している自らを問う

～映画『소리여 모여라 声よ集まれ』の上映と出演者の対談を通して考える、そして行動する～

講師：金隆泰さん（滋賀朝鮮初級学校 校長）

徳永 信一さん（ウリ滋賀ハッキョ勝手に応援団）

映画『소리여 모여라 声よ集まれ』は、滋賀朝鮮初級学校で毎年行われている夏祭り“ウリハッキョマダン”取材したドキュメンタリー映画です。被差別の立場にある人たちがいわゆる人権課題の当事者ではありません。この映画には、誰もが差別を克服し、人権文化豊かな社会をつくる一員として、朝鮮学校を「応援」する人々の姿が描かれています。参加者のみなさん自身が、これまでの同じ社会に生きる以上決して無関係ではいられない社会課題をいかにとらえ、一人ひとりがどのように行動していくのか、映画上映と出演者の対談を通して問い直す機会にしたいと思います。

7/29

（水）

第2セミナー（ケーススタディ部会）

府立今宮工科高等学校

“サクッと” 模擬ケース会議体験 ～生徒を援助するために～

講師：柿 慶子さん（大阪教育大学 特任教授）

今年もケーススタディ部会では、大好評の「模擬ケース会議ワークショップ」を開催します。昨年度は申込多数で締切となった人気企画を、事例を新たにしてみたい実施します！

昨今、生徒を取り巻く状況はますます複雑となり、生徒一人ひとりの援助ニーズも多様化しています。不登校の状態にある生徒、発達特性のある生徒、外国にルーツのある生徒、性別違和のある生徒など、各校でさまざまなケースに向き合っている教職員の方も多いのではないのでしょうか。

本ワークショップでは、模擬ケース会議を行いながら、生徒の話を書く際の観点、アセスメントの考え方、短時間でケース会議を進める工夫、校内で支援をつなぐためのポイントなど、日々の実践に生かせる観点やスキルを、参加者の皆さんと一緒に学んでいきます。

毎年参加して下さっている先生方はもちろん、「気になっていたけれどまだ参加したことがない」という先生や、経験年数の少ない先生方にも、ぜひ参加していただきたい企画です。ぜひお誘い合わせのうえ、ご参加ください！

第3セミナー（進路保障部会）

府立今宮工科高等学校

“生”について考える時間 ～性教育×『解体新書』×農～

講師：福田 真央さん（株式会社 TENG ヘルスケア／元大阪市保健体育科教員／思春期保健相談士）

竹中 克治さん（和泉市教育センター 教育支援員／刑場研究会／じんけん SCHOLA(スコラ) スタッフ）

報告：府立農芸高等学校

前半は、TENG ヘルスケアの福田さんより「TENG の性教育『セイシル』 ～10代から寄せられた最新相談データを紹介～」、『解体新書』の研究をされている竹中さんより「近代医学の形成と被差別部落 ～刑場・『解体新書』・木骨～」と題してご講演いただきます。また、府立農芸高等学校からは『命の授業』～“社会実装”をめざした“農による学びで人を育てる”～と題して実践報告をいただき、それぞれの立場から“生”に関わる取り組みについてお話しいたします。

後半の対談では、登壇者それぞれの生き方やあゆみ、現在の活動、職業観にも触れながら“生”を考える時間にしたいと思います。

＊書籍販売あり

7/29

（水）

校長部会

府立今宮高等学校・多目的ホール

子どもを主体とした学校づくり

講師：工藤 勇一さん（教育アドバイザー）

人権教育の三側面の一つに「人権が尊重された教育」が掲げられ、その具体化のための学校体制の構築が求められています。一方、2023年に『こども基本法』が施行され、各学校現場において、子どもを権利の主体にした教育実践が模索されています。このような状況をふまえ、子どもを主体にした、人権が大切にされる学校づくりをどうすすめていくのか、そのための学校運営のあり方や校長・准校長の役割などについて、改めて考えていく機会にしたいと思います。

府立人研

大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

（通便は「府立人研」とお書きください。）

TEL・FAX 06-6324-3822（直通）（お電話の場合は、火曜日をお願いします。）

E-Mail furitsujinken@nifty.com（お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。）

U R L https://furitsujinken.in.coocan.jp/



府立人研HPも
随時更新中です！

7月30日（木）第2日

9:30 10:00 12:00 13:00 13:30 15:00 15:30 17:00

内容	受付	全体会	休憩 移動	受付	分科会 Ⅰ部	休憩 移動	分科会 Ⅱ部	事務 連絡等
----	----	-----	----------	----	-----------	----------	-----------	-----------

会場 今宮高等学校・多目的ホール 今宮高等学校 または 今宮工科高等学校

第2日 午前 全体会

7/30 (木) 全体会 10:00 12:00	全体会	府立今宮高等学校・多目的ホール
	障害はどこにある？「諦めない」を「諦めない」 ～地域で育つ・地域で生きる・私たちの作りたい地域とは～ 講師：三井 孝夫さん（NPO 法人自立生活センター・リアライズ 理事長）	
	挑戦的なタイトルは、講師の三井さんが人生の中で出会った多くの理不尽な出来事、そして、それを乗り越える力となった多くの人との出会いから生まれたものです。障がいのある人が日常の様々なシーンで出会う「差別」はマジョリティの側からすると「親切」や「配慮」だったりすることもあります。三井さんはその点にも切り込んで、問題の本質を明らかにしていく姿勢を大切にされています。 私たちの中にある意識、そしていまだ社会に深く根づいている障がいのある人に対する偏見やそれを支えている社会の在り方を改めて問い直していきたいと思ひます。大阪の教育の理念である「ともに育ちともに生きる」教育とは何か、また障害者差別解消法のめざす「障害の有無によって分け隔てられることなく相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会」をどう創っていくのかともに考える機会とします。	

第2日 午後 分科会 人権教育実践・入門セミナー及び教頭部会

7/30 (木) 分科会 Ⅰ部 13:30 15:00	第1工房（若手工房）	府立今宮工科高等学校
	生徒の姿から考える HR 活動 ～“こうなしてほしい”を取り組みにつなげる実践報告会～ 報告：府立柴島高等学校 HR 活動で、「何をテーマにすればいいのだろう」「この取り組みにどんな意味があるのだろう」と悩んだことはありませんか。生徒の実態は学校や学年によってさまざまですが、私たち教職員には「こんな学年になしてほしい」「こんな力を身につけてほしい」という願ひがあるはず。この企画では、発表校の実践報告をもとに、自校の生徒の姿や課題を思い浮かべながら願ひを言葉にし、実現に向けて HR でどのような取り組みができるのかを、参加者どうして具体的に考えます。生徒の姿を共有し、多様な実践や観点に触れることで、自校の実践につながる学びの場をめざします。	
	第2工房（防災と人権）	府立今宮工科高等学校
7/30 (木) 分科会 Ⅰ部 13:30 15:00	日々防災③ ～平時の備えは十人十色～ 講師：松川 杏寧さん（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科、人と防災未来センター リサーチフェロー、防災科学技術研究所 客員研究員） 報告：府立淀商業高等学校 首席 有志生徒 情報提供：府立大手前高等学校 定時制の課程 2026 年は、東日本大震災から 15 年が経ちます。過去の災害から「みんなで助かる」ための自助・共助、地域連携の重要性について学ぶことを目的としています。前半は、松川さんより「災害から考える人権と共生社会」と題してご講演いただきます。後半は、府立淀商業高等学校の有志生徒から「高校生が考える『新しい防災のカタチ』～誰ひとり取り残さない命をつなぐ美蓄パン～」と題して実践報告をいただきます。さらに、府立大手前高等学校からは、「個別の避難計画」フォーマットのひな形データをご提供いただきます。この機会に、防災について一緒に考えていきましょう。 *備蓄パン・書籍販売あり	
	第3工房（支援教育）	府立今宮高等学校
	大学（高等教育界）における学生支援体制の現状と課題 講師：望月 直人さん（大阪大学ウェルネス推進機構、健康支援相談センター 相談支援部門 准教授） 障がいのある学生が大学でどのように学んでいるのか、府立学校の教職員には見えにくいところも多いのではないのでしょうか。重度の障がいがある場合は受け入れられないのではないかと、入学できたとしても単位取得が難しいのではないかと、さらには大学を卒業しても就労ができないのではないかと、生徒に漠然としたアドバイスをしていることもあるかもしれません。今回は大阪大学で学生支援に携わっている方から、大学で実際に行われている支援内容についてお話をいただきます。障がいの状態によって、学ぶことを諦めることのない社会にしていけるために、教職員として何ができるのかを、一緒に考える機会にしたいと思ひます。	
7/30 (木) 分科会 Ⅰ部 13:30 15:00	第4工房（自主活動育成）	府立今宮高等学校
	そもそも「自主活動」という前に ～人権課題を考える主体とは～ 講師：徳永 信一さん（びわこ南部地域部落解放高校生等交流集会 顧問、元 滋賀県立高校教員） 滋賀県では、高校生が人権課題を自分事としてとらえ、「差別をなくすにはどうすればいいのか」を対話の中で真摯に考察し、表明し合い、自分の考えを高めていく「びわ南（びわこ南部地域部落解放高校生等交流集会）」という取り組みが続けられています。講師の徳永さんは、滋賀県の高校教員として、「びわ南」での取り組みをその場だけのものとせず、生徒にとって身近な「学校」という場においても実現してこられました。生徒の「自主活動」という前に、何より教職員自身が自分も差別のない社会をつくる当事者であり、子どもたちとともに取り組みをつくり上げていく主体者として、これからの実践につなげていただきたいと思ひます。	
		

第5工房（性差別撤廃教育）

府立今宮工科高等学校

広告を使って、日本社会のジェンダー不平等を読み解く！

講師：小林 美香さん（ライター・講師）

通勤通学中の電車内や街頭で見かける広告たち。私たちは日々、無数のビジュアル・メッセージに囲まれて暮らしています。では、多感な中高生たちは、そこから一体どんな「性別役割分担」や「ルッキズム（外見至上主義）」を無意識に刷り込まれているのでしょうか？ 今回は、写真研究家の小林美香さんにご講演いただき、日々アップデートされる広告のジェンダー表現を読み解きながら、いま私たちを取り巻く視覚環境のリアルに迫ります。

さらに後半では、私たちが普段、学校現場や授業で何気なく使っている「ジェンダー表象」についても参加者の皆さんと一緒に振り返ります。「良かれと思って使ったイラストが、実はステレオタイプを助長していたかも…？」そんな気づきを共有し、明日からの教育活動に生かせるヒントを学び合いましょう！

7/30
(木)

第6工房（部落問題学習）

府立今宮工科高等学校

あゆみ寄りという挑戦 ～豊かな文化の誇りをもって～

講師：梅本 正直さん（元 大東市教育委員会教育政策室課長・人権教育指導員・社会教育主事）

自身の生まれ育った地域の文化に誇りをもち、そのすばらしさと豊かさを活動背景とし、「寝た子」を寝かされたままにせず積極的に周囲との交流を深めていった活動についてお話しいただきます。差別する側とのあゆみ寄りを通して地域への理解を促し、相互理解によって差別解消を推し進める方法は「差別を許さない」という人権教育の根幹であると言えるのではないのでしょうか。

また、部落問題学習を行う際に考えてしまう「当事者がいたらどうしよう」という悩みに対しての解答となるような内容ともなっています。講演後には「元気をもらえた」と感じることができるとなっています。太鼓演奏体験の時間もありますので、ぜひご参加ください。

15:30
|
17:00

第7工房（情報と人権）

府立今宮高等学校

インターネットと差別・人権侵害

講師：辻 大介さん（関西学院大学 社会学部 教授）

「SNSの危険性」という言葉にどのようなイメージをもたれるでしょうか。「SNSは“見る専門”」で、自分のことは発信しないから安全だと思っている人もいるかもしれません。しかし、フィルターバブルによる情報の囲い込みや、エコーチェンバーによって異なる意見を排除したり、過激な主張が増えたりしてしまう環境には、投稿しなくても誰もが触れることができてしまいます。本分科会では、インターネット空間で日常的に過ごす生徒たちがどのような影響を受けているのかを考えていきたいと思います。即効性のある解決策が見えにくい中で、子どもたちの人権を守るため、教職員として何ができるのかを一緒に考えてみませんか？

第8工房（多文化教育）

府立今宮高等学校

ありのままの私とあなたで共に生きていくために

講師：李京旻さん（宇治市立東宇治中学校）

今の日本社会で「自分の名前を語ること」に不安や危険を感じたことはあるでしょうか。名前を出して話すことにどれだけのエネルギーが必要か考えたことはあるでしょうか。

今回の講師である李さんは、大学生の途中までは通名を使い生活をされていましたが、現在は本名で中学校の教員として働かれています。それまで通名にこだわっていた自分自身もいたそうですが、ある時、本名で生きていくことを決断されました。様々な葛藤の中で決断したその時の思いや、その後の教員生活などについて聞かせていただきます。李さんの自分史を通し、昨今の世の中を見つめなおし、差別のない社会をどのように作っていくのかを皆さんと考えたいと思います。

教頭部会

府立今宮高等学校・多目的ホール

外国ルーツへの差別を知り、多文化共生について考える

講師：大山 智現さん（Dream Challengers 代表）

外国にルーツのある児童生徒が増える中、学校では言語や文化の違いへの理解と支援が重要な課題となっています。子どもたちが安心して学び、地域で成長するためには、多文化共生の観点を大人が身につけることが欠かせません。今回の教頭部会では、Dream Challengers 代表の大山智現さんを招き、ご自身の経験や外国ルーツの子どもたちが抱える思い、異文化理解の大切さについて学び、学校や地域でのより良い関わり方を考える機会とします。

7/30
(木)14:00
|
17:00

府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-Mail furitsujinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)

U R L https://furitsujinken.in.coocan.jp/

府立人研HPも
随時更新中です！